

令和 5 年

2 月号

No.640

今月  
の  
ご法話

今を感謝して生きる

# 法音

日蓮宗  
法音寺



# 勇猛精進

かん  
忍

全てのことに「はい」と言おう

堪忍できる

全てのことに感謝しよう

堪忍できる

全てのことを喜ぼう

堪忍できる

続ければ仏になれる

## 月刊・法音 令和5年2月号 No.640 目次

【信仰の指針】正精進<sup>しやうしやうじん</sup> 今を懸命に生きましよう 1

今を感謝して生きる 山首 鈴木正修 2

◆講日のご案内 17

◆有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 18

◆青少年育成道場のお知らせ 20

◆仏教漫画『日蓮さま』・10辻説法 21

◆辻説法 29

◆お寺の本棚 30

◆常寂光土への誘い(7) 32

◆やさしい仏教 35

◆のりのね体験 36

◆顕修院日達上人御祥月命日リモート唱題行開催 38

◆支院だより・計報 40

◆法音寺は「信仰と福祉のお寺」です 70

◆福祉のひろば 71

○幸せのお手伝い 72

○昭徳会・天王保育園、りんりんちゃんのクリスマス会! 74

○日本福祉大学・日本福祉大学を退職する教員の最終講義のご案内 76

◆賛助員ご芳名 78

◆幸せの種まき／編集後記 80

◆連載まんが・ひまわり・121 じいちゃんの遺言 81

◆法音寺の社会福祉・教育事業 82

表紙題字 山首上人さま書 表紙写真・水仙

掲載写真 表紙・信仰の指針 3頁・梅田雅臣氏撮影

2頁・加納将人氏撮影

信仰の指針

し  
よ  
う  
し  
よ  
う  
じ  
ん

正  
精  
進

今を懸念に

生きましよう

日  
教  
五



マンサク



# 朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

# いま かんしゃ 今を感謝して生きる

昨年さくねんの重大じゅうだいニュースの中なかでも安倍元総理あべもとそうりの暗殺事件あんさつじけんは皆みなさんも驚愕きょうがくされたことと思います。安倍元総理あべもとそうりが潰瘍かいよう性大腸炎せいだいちやうえんで突然辞任とつぜんじにんされた時とき、小泉元総理こいみもとそうりが「人生には上り坂のぼりさか、下り坂くだりさか、そして、まさか」という坂さかがあります」と言いわれたのを思おもい出だします。7月8日がつのあの事件じけんは本ほん当とうに、まさかうらでした。また、犯人はんにんが旧統一教会きゅうとういつきやうかいに対すたいる恨みうらを安倍元総理あべもとそうりにぶつけたということがわかり、これも驚おどろきました。

旧統一教会きゅうとういつきやうかいには「天宙平和連合てんちゆうへいわれんごう」という外郭団体がいかくだんたいがあります。一昨年おとしユーチューブで偶然ぐうぜんその動画どうがを見たので、すが、マザームーンこと韓鶴子ハンハクチャさんを称賛しょうさんするもので、最初さいしよにビデオメッセージを送おくったのがトランプ元大統領もとだいどうりやうでした。続つづいてビデオメッセージに登場とうじやうしたのが安倍元



総理<sup>そうり</sup>でした。これには本当に驚<sup>おどろ</sup>きました。犯人<sup>はんじん</sup>もあの動<sup>どう</sup>画<sup>が</sup>を見た<sup>み</sup>ようです。

どこでどういうことがあるかわからない。本当に人生<sup>じんせい</sup>には、まさが、という坂<sup>さか</sup>があるものです。

人生<sup>じんせい</sup>の、まさが、といいますと、事故<sup>じこ</sup>に遭<sup>あ</sup>うとか重<sup>おも</sup>い病<sup>びよう</sup>気<sup>き</sup>になるということもあると思います。信者<sup>しんじゃ</sup>さんの中<sup>なか</sup>にも「まさか自分<sup>じぶん</sup>がこんな病<sup>びよう</sup>気<sup>き</sup>になるとは」と言<sup>い</sup>われる方<sup>かた</sup>があります。今<sup>いま</sup>から30年<sup>ねん</sup>近<sup>ちか</sup>く前<sup>まえ</sup>、東京<sup>とうきょう</sup>支<sup>し</sup>院<sup>えん</sup>の猪<sup>いの</sup>原<sup>はら</sup>妙<sup>みよ</sup>政<sup>せい</sup>法<sup>ほう</sup>尼<sup>に</sup>の紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>で、東京<sup>とうきょう</sup>から信者<sup>しんじゃ</sup>さんになっ<sup>な</sup>て間<sup>ま</sup>もない方<sup>かた</sup>が息子<sup>むすこ</sup>さんをつれ<sup>つ</sup>て来<sup>こ</sup>られました。話<sup>はな</sup>を聞<sup>き</sup>きますと、息子<sup>むすこ</sup>さんはサッকারJリーガーでした。その息子<sup>むすこ</sup>さんは20歳<sup>さい</sup>そこそこでしたが足<sup>あし</sup>が骨<sup>こつ</sup>肉<sup>にく</sup>腫<sup>しゅ</sup>になり、切<sup>せつ</sup>断<sup>だん</sup>しなければいけないという状<sup>じょう</sup>況<sup>きやう</sup>でした。

当時<sup>とうじ</sup>若<sup>わか</sup>かつた私<sup>わたし</sup>はかける言<sup>こと</sup>葉<sup>は</sup>がなく、ただただ「そうですか。大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>ですね。とにかくお題<sup>だいもく</sup>目<sup>め</sup>を唱<sup>とな</sup>えてください」



と言っただけでした。お題目を唱えることを勧めただけでも良かったとは思いますが、今ならこんな話もできたかと思えます。

東京オリンピック、パラリンピックのプレゼンテーションがアルゼンチンのブエノスアイレスで行われた時、佐藤真海さんという方がプレゼンテーターとして登壇されました。今は結婚されて谷真海さんと言われます。この方は片足がありません。早稲田大学の応援部のチアリーダーとして活躍をしておられた時、足の骨肉腫がわかり、片足を切断されました。その後、絶望を乗り越え水泳をしながらリハビリをして、走り幅跳びでパラリンピックに何度も出て大活躍されました。

結婚をされて男の子を出産した後は、トライアスロンに転向して世界選手権で優勝されています。最近では東京オリンピックの日本代表の旗手を務められました。このような方もおられます。あなたがもし人生に絶望して



も、仏さまは決してあなたに絶望していません。必ず前を向けば、そこに御守護があります。

バリアフリーコンサートという仕事をしている鈴木木ひとみさんという方がいます。現在60歳で、エッセイストとして本を何冊も書いておられ、講演家としても年間にかなりの数の講演を全国でしておられます。この方の人生が『車椅子の花嫁』というドラマにもなりました。鈴木さんは19歳でミスインターナショナルの日本代表になりました。それからモデルやテレビのアシスタントをされたのですが、22歳の時に撮影の帰りに高速道路で交通事故に遭い、乗っていた車が横転して、鈴木さんは窓を突き破って外に放り出されました。その時に体を強く打ち、救急車で病院に運ばれると、首の骨が折れていることがわかりました。二週間後にお医者さんから言われたのが、「あなたの足はもう動きません。今の医学では



折れた首の骨の矯正はできても、その中を通る神経をつ  
ないで治すことまではできません」という絶望的な宣告  
でした。それから車椅子の生活になりました。

それまでは堂々と外を歩いていたのですが、それが車  
椅子になり、退院してから、〃周りの人はどう見るだろ  
うか。どう言われるだろうか〃と気になり、なかなか外  
に出られなかったそうです。その時のボーイフレンドが  
「とにかく外に出ないといけないよ」と言って、車椅子  
を押してくれ、鈴木さんは勇気を振り絞って外に出まし  
た。その時に自分に何度も〃何も悪いことをしていない  
んだから、堂々と外に出ればいいんだ〃と言いつつ聞かせま  
した。外に出てみると、自分が思っているほど、周りの  
人は自分のことを気にしていない〃と思つたそうです。  
その通りで、多くの人は少し自意識過剰かもしれませんが。  
そういうことがわかり、だんだん心が楽になり、車椅子  
を押してもらって、いろいろな所に行くようになりまし



た。そうすると街は障がい者にとって不便なことが多い  
ということがわかってきたそうです。

一見平らに見える道路も、舗装の関係でかまぼこ型に  
なっていて、慣れていないと傾斜に流されてしまうそう  
です。またお店や歩道の段差は、歩いている人にはあま  
り気にならなくても、車椅子利用者にとっては大きな障  
害に感じたそうです。

自家用車やタクシーには乗れたのですが、バスには乗  
れませんでした。電車に乗るときは、大きな駅ではエレ  
ベーターがあるのでホームまで行けますが、大抵の駅は  
階段なので、駅員さんに頼んで抱え上げてもらわなけれ  
ばいけませんでした。減多にないのですが、駅員さんに  
よっては嫌な顔をする人もあったそうです。

そのような経験をしながら、世の中のバリアフリー  
を進めなければ〴〵と思い、バリアフリーコンサルタント  
になったそうです。今ではいろいろな所に行動範囲を広



げ、障<sup>しょう</sup>が<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>に<sup>やさ</sup>優<sup>よ</sup>しい世<sup>よ</sup>の中<sup>なか</sup>になるようにと日夜活動<sup>にちやかつどう</sup>をしていらつしやいます。

この方も谷<sup>かた</sup>さんと同じ<sup>おな</sup>ように、何<sup>なに</sup>か人生<sup>じんせい</sup>に目標<sup>もくひよう</sup>を〃  
というこ<sup>こ</sup>でスポーツをされるようになり、いろいろな  
スポーツを体験<sup>たいけん</sup>されました。その中<sup>なか</sup>の一つ、射撃<sup>しゃげき</sup>ではア  
テネのparalimpicに出<sup>で</sup>られています。それまで射撃<sup>しゃげき</sup>  
なんてしたこともないのに、練習<sup>れんしゅう</sup>を重ね<sup>かさ</sup>、paralimpic  
クに出場<sup>しゅつじよう</sup>するまでになったのです。

鈴木<sup>すずき</sup>さんがリハビリの一環<sup>いっかん</sup>としてプールに通<sup>かよ</sup>うようにな  
った時<sup>とき</sup>のことです。そのプールは身体障<sup>しんたいしょう</sup>がい者<sup>しや</sup>スポー  
ツセンターの中<sup>なか</sup>にあり、いろいろな障<sup>しょう</sup>がいを持<sup>も</sup>った人<sup>ひと</sup>が  
来ていました。

ある日<sup>ひ</sup>、鈴木<sup>すずき</sup>さんは目<sup>め</sup>の不自<sup>ふじゆう</sup>由<sup>ゆう</sup>な人<sup>ひと</sup>が耳<sup>みみ</sup>の不自<sup>ふじゆう</sup>由<sup>ゆう</sup>な人<sup>ひと</sup>  
に時間<sup>じかん</sup>を尋<sup>たず</sup>ねている光景<sup>こうけい</sup>を目<sup>め</sup>にしました。尋<sup>たず</sup>ねられた耳<sup>みみ</sup>  
の不自<sup>ふじゆう</sup>由<sup>ゆう</sup>な人<sup>ひと</sup>は話<sup>はな</sup>すことができず、目<sup>め</sup>の不自<sup>ふじゆう</sup>由<sup>ゆう</sup>な人<sup>ひと</sup>にど  
うやって時間<sup>じかん</sup>を伝<sup>つた</sup>えようかと、とてもあたふたしていま



した。何かサポートできればと、鈴木さんは二人のところにへ行きました。

そこで、鈴木さんは目の不自由な人が耳の不自由な人に時間を聞いて、そこに車椅子の自分が駆けつけるという様子を思い浮かべながら、こんな偶然もあるんだなあ、と考えていたら、だんだんおかしくなってきた。笑っちゃいけない、と思いつつも声に出して笑ってしまったのです。

すると二人も一緒に「あはは」と笑ってくれたのです。このとき、鈴木さんは二人が笑えるほどの気持ちの柔軟さ、と、広い心を持っていることに驚き、感激したそうです。前を向いて頑張るといふことは大事なことです。足がなからうが、障がいがあるが、頑張ることは大事ですが、そこに心の柔軟さ、ユーモア精神が加われば最高だと思えます。



余談ですが、先代日達上人もおもしろいことをよく言  
っておられました。

昔、駒方寮の子どもが米軍の倉庫に忍び込んで、何か  
を盗ってきいたことがあったそうです。その時に「なんで  
そんなことをするんだ」と聞くと、子どもは「向こうが  
『フリーズ（どうぞ）』と言ったのです」と言いました。  
『フリーズ（動くな）』を聞き間違えたという話です。  
日達上人はそんな話をよくされていました。

以前、NHKで目の不自由な方の施設・ライトハウス  
の特集をしていました。ライトハウスにその時、目が不  
自由になって間もない若い男性が入ってきました。ライ  
トハウスにいる他の若い人達が、その男性を励ますため  
にちよっとした会を催しました。その時にその男性に  
「何が一番不自由？」と聞くと、「いろいろなことが不  
自由だけれども、一番つらいのが大好きな人の顔が見え



なくなっただこと」だということです。大好きな人の顔が見えなくなるのは確かにつらいことです。それを聞いていた女性が、「それはそうだよ。大好きな人の顔が見えないのは寂しいよね。でもね、触ってしまえばいいのよ。目が見えている時はいきなり触ると驚かれたけど、今はいきなり触ってしまえばいいのよ」と言ったのです。おもしろいことを言うなあ、と思ったのですが、他にもいろんなユーモアを交えた会話がありました。かのヴィクトール・フランクルが言った「ユーモアは魂の武器である」という言葉が浮かんできました。

昨年末に白駒妃登美さんの講演会に招待を受け、行ってきました。愛知県西尾市の郷土の偉人で、台湾で活躍をされた方を顕彰する記念講演でした。白駒さんは台湾と日本の友好の話をされました。白駒さんは博多の歴史として有名な方です。歴史とは歴史に詳しい歴史好きの



女性じよせいということことです。この方かたは子どもこの頃ころから歴史れきしが大好きだいすきで、とくに福沢諭吉ふくざわゆきちが大好きだいすきだったそうです。福沢諭吉ふくざわゆきちが大好きだいすきすぎて慶応大学けいおうだいがくに入学にゅうがくされたそうです。慶応大学けいおうだいがくを卒業そつぎょうしてから日本航空にほんこうくうのキャビンアテンダントキャビンアテンダントになりました。キャリアキャリアを重ねかさねて総理大臣そうりだいじんの乗る政府専用機せいふせんようけのキャビンアテンダントキャビンアテンダントにもなりました。それから結婚けっこんして引退いんたいをされ、男の子おとここが生まれうれました。順風満帆じゅんふうまんぱんの人生じんせいだったのですが、ある日ひ、定期健診ていきけんしんで子宮頸がんしきゅうけいがんが見つかりみました。早期そうきということことで手術しゅじゆつをされたのですが、2010年ねんの夏なつに定期健診ていきけんしんで肺はいに転移てんいしていることがわかりわりました。その時ときにお医者さんいしやから「正直しやうじきに申し上げあますね。この状態じやうたいで助たすかった人ひとを、今いままで私わたしは見たことことがありません」と言いわれました。お医者さんいしやからそんなふういに言いわれたら絶望ぜつぼうしてしまいいます。当然とうぜんですが目の前めまえが真っ暗まぐらになり、幼い息子おなさんの寝顔ねがおを見みては、毎晩まいばん泣ないたそうです。



そんな時、ある出版社から電話がありました。白駒さんはずっと歴史ブログをされていて、そのブログを本にしませんかと出版社が言ってきたのです。その時に白駒さんは、本なんか書いている場合じゃない。とも思ってたのですが、本を出して今まで生きてきた証にしよう。そして子ども達への遺言にしよう。と思い直し、それから改めて日本の歴史を紐解いて、一生懸命勉強をされました。その中で同じように病気で苦しんだ正岡子規から大きな勇気をもらったそうです。「柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺」で有名な正岡子規です。

子規は、明治時代の文学者で武家に生まれました。そのことに大変誇りを持っていました。また、武士道に憧れを持っていて、武士道における覚悟とは何だろう。とずっと考えていました。自分自身で出した結論が、武士道の覚悟とは、いついかなる時でも平然と死ぬること



である。というものでした。その後、子規は脊椎カリエスに罹りました。脊椎カリエスというのは脊椎を結核菌が侵食する病気で、ものすごく苦しくて痛い病気です。その痛みに耐えかねた子規は何度も本気で自殺を考えたとすうです。その苦しみの中で子規は気づいたのです。自分の考えが真逆だったことに。

◆ 本当の覚悟とは、どんなに痛くても、どんなに苦しくても、生かされている今に感謝をして平然と生きることだ。死を迎えるその瞬間まで与えられた一瞬一瞬を生きるからこそが覚悟だ。◆  
実際に子規は死を迎える数時間前まで執筆活動を続けました。そして、近代文学に多大な功績を残しました。

白駒さんも子規の生き方に共感して、◆これを見習おう。◆と思ったそうです。そして、◆過去の後悔や未来への不安を手放し、今を感謝して生き切ろう。◆と、決意を



されました。

すると、毎晩、ぐっすり眠れるようになり、なんと肺にできたがんが消えてしまったのです。今では非常に健康で、ご自分の気づきと先人達の志を伝えるために年間200回以上、講演活動をされています。

白駒さんは言われます。

「過去や未来を手放しましょう。生かされている今に感謝して一生懸命生きましょう」

人間は、どんな状態になっても生かされている今に感謝して一生懸命に前を向いて生きる。生き切る。これが大事です。そこに少しのユーモアが加われば言うことなしです。



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では  
毎月の講日の中で

三徳の教えを聞くことができます。

是非講日にご参詣いただき

教えを心にしみ込ませましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

|       |          |      |          |
|-------|----------|------|----------|
| 四日市支院 | 2月3日(金)  | 福山支院 | 2月5日(日)  |
| 東京支院  | 2月11日(祝) | 大垣支院 | 2月21日(火) |
| 岡山支院  | 2月23日(祝) |      |          |

# 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

| 支院・布教所名 | 今月の講話日など   | 住 所             | 電話番号           |
|---------|------------|-----------------|----------------|
| 大乗山泰明寺  | 5日・20日     | 名古屋市中村区名駅2-37-3 | ☎(052)581-2069 |
| 開基堂     | 10日        | 江南市寄木町天道18      | ☎(0587)53-5436 |
| 東京支院    | 11日・25日    | 東京都練馬区谷原2-6-37  | ☎(03)3904-1251 |
| 山形布教所   | 10日        | 山形市長町2-4-6      | ☎(023)681-0770 |
| 静岡支院    | 2日・12日・19日 | 磐田市中心之崎4-7-3    | ☎(0538)32-6625 |
| 豊川支院    | 4日・20日     | 豊川市中野川町1-26-3   | ☎(0533)86-4704 |
| 安城支院    | 5日・18日・28日 | 安城市新田町小山31-25   | ☎(0566)76-2504 |
| 明川支院    | 11日・25日    | 豊田市明川町堂ノ脇1-2    | ☎(0567)32-1825 |
| 佐屋支院    | 4日・12日・24日 | 愛西市大井町浦田面296    | ☎(0567)32-1825 |
| 一宮支院    | 4日・15日・25日 | 一宮市大江1-7-4      | ☎(0586)72-7208 |
| 西春支院    | 2日・12日・22日 | 北名古屋市九之坪東ノ川20   | ☎(0568)22-5813 |
| 岐阜支院    | 4日・14日・26日 | 岐阜市切通7-15-22    | ☎(058)245-2939 |
| 笠松布教所   | 12日        | 岐阜県羽島郡笠松町八幡町23  | ☎(058)388-2740 |
| 大垣支院    | 1日・11日・21日 | 大垣市宝和町5         | ☎(0584)78-4854 |
| 関支院     | 5日・12日・23日 | 関市西福野町2-15-11   | ☎(0575)22-0776 |
| 平賀支院    | 5日・18日・25日 | 関市市平賀2-13-2     | ☎(0575)23-3771 |
| 郡上八幡支院  | 5日・26日     | 郡上市八幡町小野7-21-3  | ☎(0575)65-3933 |
| 四日市支院   | 3日・13日・22日 | 四日市市赤堀2-4-7     | ☎(059)352-3633 |
| 上野支院    | 1日・11日・21日 | 伊賀市上野向島町3475    | ☎(0595)21-0127 |

☎ご連絡は本山事務局へ

|       |            |                   |                 |
|-------|------------|-------------------|-----------------|
| 京都支院  | 1日・9日・20日  | 京都市上京区北横町360      | ☎(075)231-3437  |
| 高槻支院  | 5日・21日     | 高槻市天神町1-9-2       | ☎(072)685-1003  |
| 大阪支院  | 12日・23日    | 大阪市此花区西九条3-4-41   | ☎(06)6465-5051  |
| 和泉支院  | 5日・22日     | 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404   | ☎(072)466-3112  |
| 神戸支院  | 11日・21日    | 神戸市兵庫区五宮19-17     | ☎(078)360-4884  |
| 淡路支院  | 5日・25日     | 南あわじ市神代国衙910      | ☎(0799)421-0175 |
| 岡山支院  | 5日・7日・23日  | 岡山市南区若葉町1-16      | ☎(086)262-0818  |
| 高知布教所 | 11日        | 高知市上町5-5-39       | ☎(088)823-1983  |
| 福山支院  | 5日・19日     | 福山市西町3-19-5       | ☎(084)921-3078  |
| 三原支院  | 11日・26日    | 三原市皆実2-9-22       | ☎(0848)621-5087 |
| 安芸津支院 | 5日・19日     | 東広島市安芸津町三津3765-3  | ☎(0846)451-4012 |
| 坂支院   | 12日        | 広島県安芸郡坂町坂東2-24-12 | ☎(082)885-1064  |
| 福岡支院  | 5日・15日・19日 | 福岡市早良区城西2-11-37   | ☎(092)821-7975  |
| 壱岐布教所 | 13日・23日    | 壱岐市石田町池田東触1112    | ☎(0920)441-5445 |
| 筑後布教所 | 12日・26日    | 筑後市大字西牟田5954-1    | ☎(0942)531-7273 |
| 天草布教所 | 1日         | 上天草市大矢野町維和1502-1  | ☎(0964)581-0742 |
| 田川支院  | 12日・26日    | 田川市春日町7-30        | ☎(0947)421-1819 |
| 名古屋地区 | 7日・17日・27日 | 名古屋市昭和区駒方町3-3     | ☎(052)831-7135  |
| 瀬戸布教所 | 9日・19日・25日 | 瀬戸市東本町2-20        | ☎(0561)851-6860 |
| 亀岡布教所 | 12日・26日    | 亀岡市篠町篠牧田73-1      | ☎(0771)251-7807 |

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

第51回

# 青少年育成道場

日 時

令和5年3月26日(日)

午前8時～午後3時

対 象

15歳～35歳

(どなたでも参加できます)

参加費

2000円

(納経帳に充てさせていただきます)



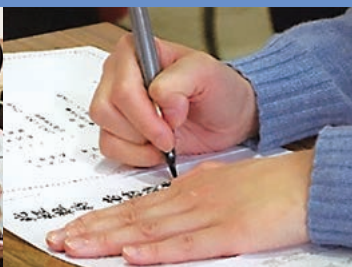
## 主なプログラム

【ご法話】 山首上人さまのご法話を拝聴できます！

【写経】 荘厳な大本堂での写経を体験できます！

【体験談】 同世代の貴重な体験を聴けます！

【読経練習】 お経の解説を含めて、学べます！



お申し込み・お問い合わせ 各支院／布教所まで

青少年育成委員会

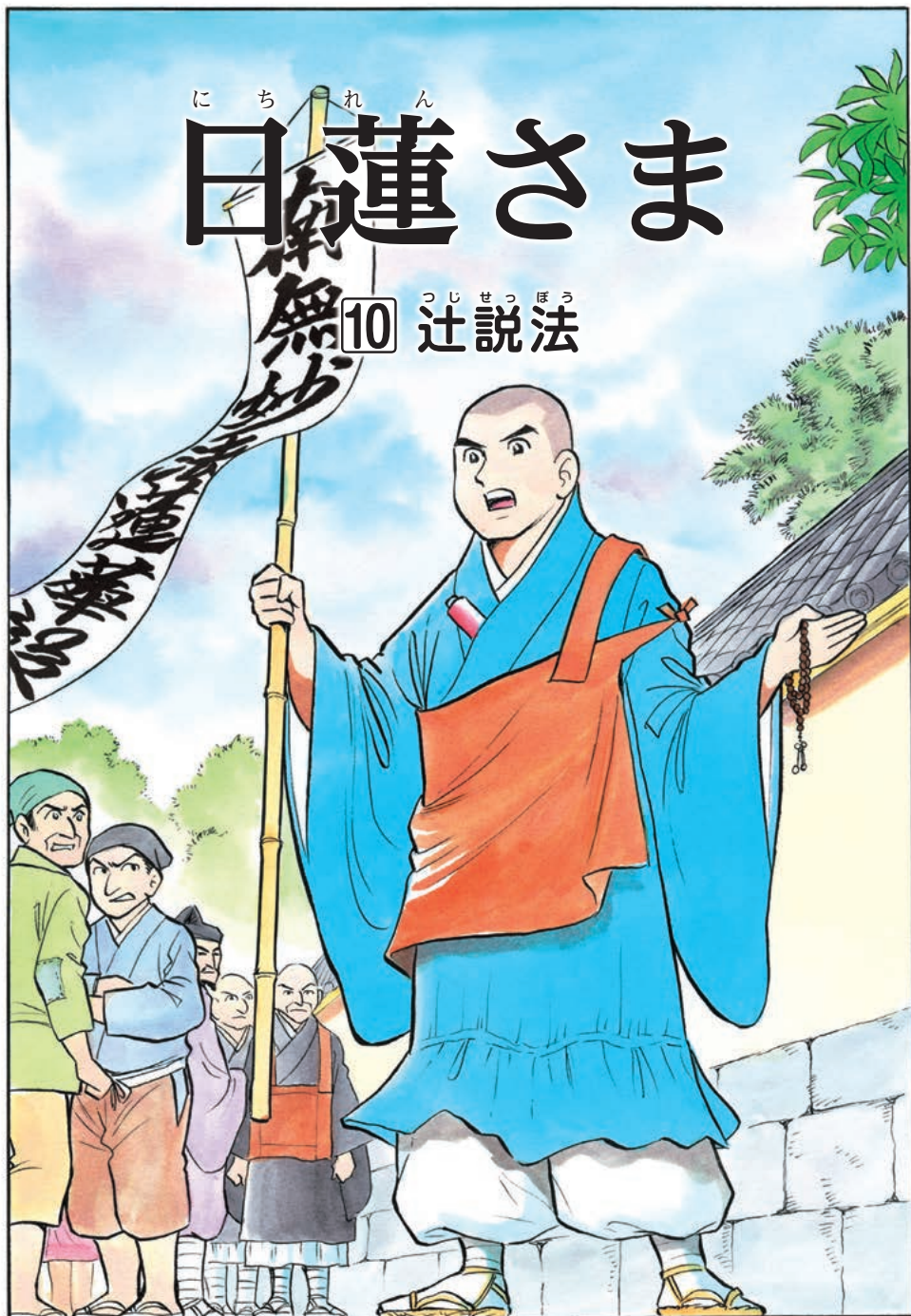
に ち れ ん

# 日蓮さま

無量

10

つじ せっぽう  
辻説法



鎌倉 松葉ヶ谷

お師匠さま  
おでかけですか？

小町の辻にて  
説法をしてまいる

留守を  
頼むよ

お気を  
つけて

どつだ  
昨日の地震の  
すごかったこと

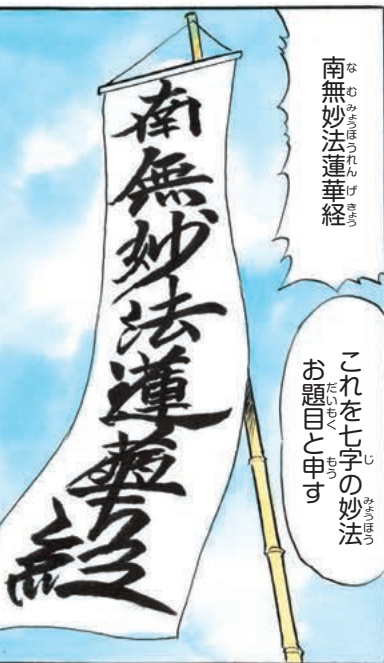
まったくよく  
地震があるよなあ  
今度揺れたら  
俺の店つぶれ  
ちまうよ

地震も困るが  
こつ雨一滴降ら  
ねえんじやなあ

これじゃ今年も  
飢饉だ

おそろしい世の中に  
なったもんだ

あれ  
また来たぞ







静まれ

だまれ  
クソ坊主



この末法の世に  
方便の教えにすがって  
真実の教えを忘れていると

生きながら無間地獄に  
落ちますぞ



わしま代々の  
真言宗じゃ  
弘法大師さまの  
ご誓願は  
鎮護国家じゃ

それをなんだ  
真言は国を亡ぼす  
と言っておるそうじゃな  
そんな馬鹿なことがあるか



話をよく  
聞くのだ



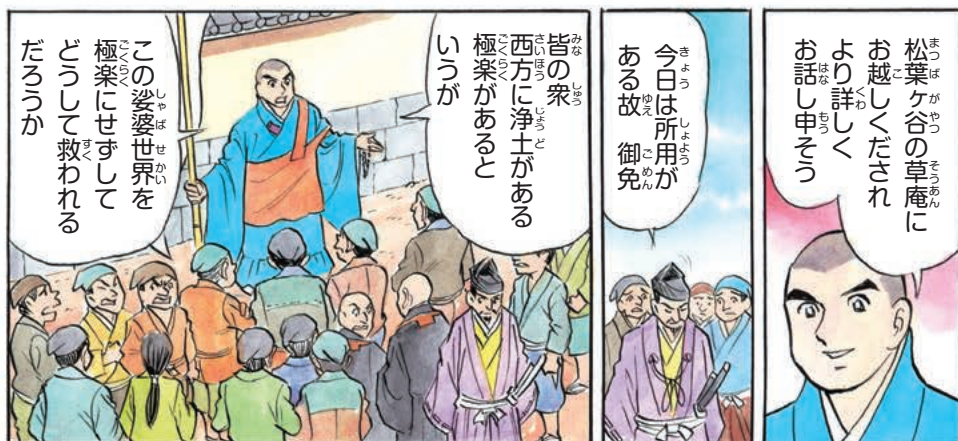
出家となつて衣を着けるは  
衆生を救い導くことに  
努めるためですぞ

末法の衆生を  
救う教えは  
南無妙法蓮華經を  
おいて他に  
ないのです

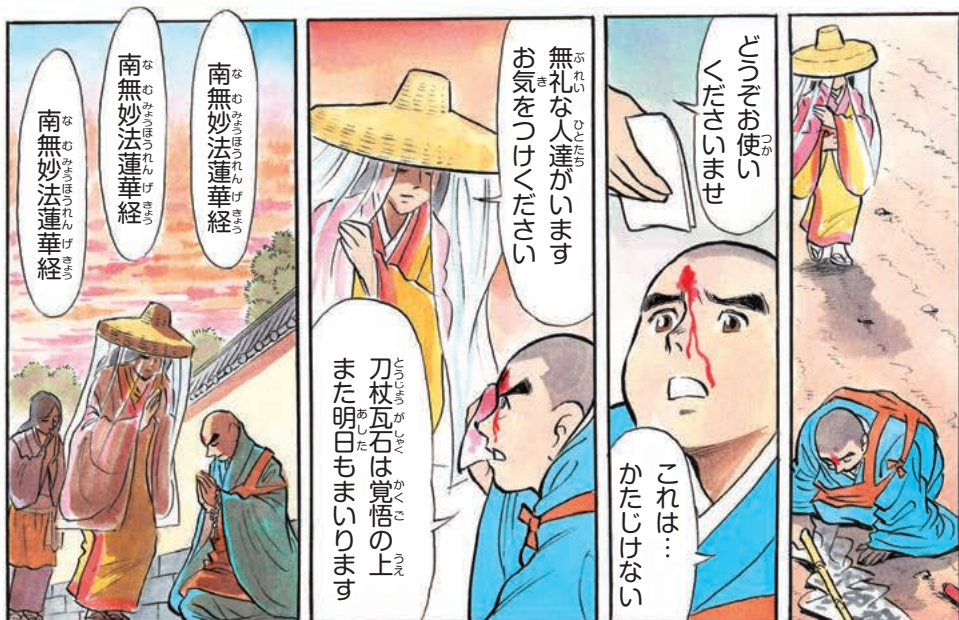
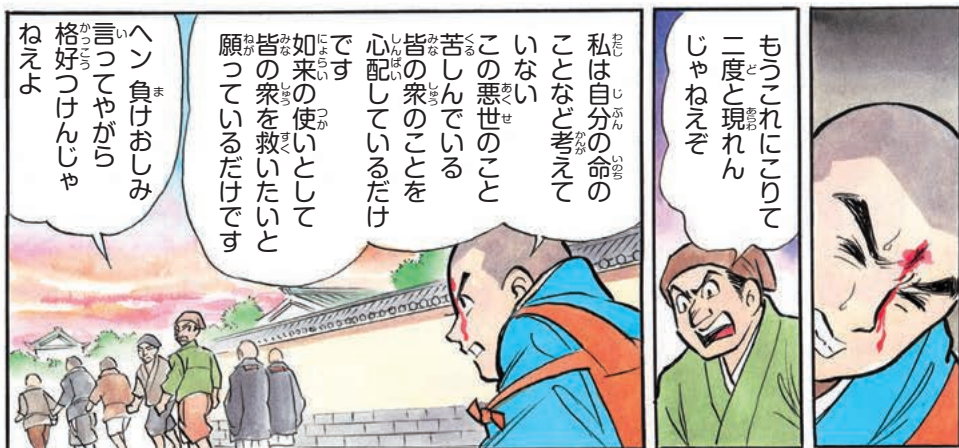
皆の衆  
法華經を  
信じなされ



真言は釈迦如来の他に  
大日如来を本尊としている  
国に二つの王があつては  
その国は滅びるが道理  
おわかりかな 御坊







つつく

## 辻説法

当時の鎌倉は度重なる地震や干ばつ等で疫病が流行し、人々は不安と恐怖に怯える日々を送っていました。日蓮聖人は、苦しみの中にいる人々を救うため、松葉ヶ谷の草庵から連日小町大路の辻に立ち、道行く人々に大声で呼び掛けました。

「われは法華經の行者日蓮なり。従う者は救わん、そむく者も救わん。順縁逆縁ひとしく皆、我が教化を受けよ、いまや奉すべき仏教は、我が唯一の法華經あるのみ…。我が法華經こそ末法に施されたる無上の道なるぞ」

いつの間にか集まる男女、その中には武士や僧侶の姿もありました。

「松葉ヶ谷に住む狂僧め！」

あちこちから日蓮聖人めがけて石が投げつけられます。それでも、日蓮聖人は数珠を振って叫び続けます。

後年、お弟子・信徒の方々に對して書いたと言われる『如説修行鈔』には、「忍辱の鎧を着て耐え忍び、法華經の剣をひっさげて、邪な教えを破り、正しい教えを顕わそうとしたが、なんといっても多勢に無勢、敵は多く、自分に味方するものは少ない」という内容がしたためられています。

まさに「宗教改革」に向けて茨の道を歩み始めた日蓮聖人でした。



辻説法の跡地とされる場所  
(鎌倉市小町)



# お寺の本棚



『大白牛車（三）』



## 因縁から見た「堪忍」

生まれてから今日までのこと、さらには前世のこと、親・先祖の因縁というものも考えますと、「私は何も悪い因縁がない」とは言えないでし

よう。確かに、殺人・強盗といった大それたことはしていないとしても、気のつかない所で、多くの罪障を重ねてきていると思うのです。「私は何も」とは、誰もが言いたい言葉です。しかし、原因のない結果は決してありません。そうなる原因が重なって現れたのです。自分の罪障を自覚していかなければなりません。

ある信者さんの娘さんが結婚しました。相手方には、病に臥すお父さんがいました。それでもお母さんは元氣なので、病人のお世話といってもお母さんのお手伝いくらいならと思っていたのです。ところが結婚して半年経った頃、お母さんが看病疲れで床に就いてしまいました。以来ご両親の食事はもちろん、下の世話までしなければならなくなっていました。

「本当に困りました。しかし、これも私の持っている因縁だと思い、努力しています」とおっしゃいました。





自分の因縁を自覚される立派な方でした。目の前にあること、起きたことをすべて受け入れることです。その因縁が受け入れられませんが、何事も、この責任はすべて相手にある」としか思えませんから、堪忍もできません。また、他人はどうあれ、自分だけはこの苦しみから抜け出したい、楽をしたいという、貪りの心が起きてきます。最初は針の穴のように小さいことでも、その内にどうにも取り返しのつかない結果を招いてしまうのです。

思うようにならないことに遭遇した時、腹を立てっ放しにしていたのでは良い考えは浮かびません。まして、施しや堪忍をしようという考えなど、思いつくはずがありません。法華経は、たとえどのような苦しいことに出くわしていても、自分のことはひとまず捨て置いて、人のことを考えてあげなさい」と教えるのです。

どのようなことであろうとも、ひとまずは自分の因縁に罪障という自覚で受け入れ、それから後、この問題をどうしよう、どうすれば解決するだろう、と、ゆっくり考えていくのです。

自分を主張する前に、まず人に対して施しをする、堪忍をする、そうしていくことによって、心は次第に広がっていきます。「仏さまの智慧」とまではいなくても、自我を離れた心で他の人のことを考えられる、お彼岸のように穏やかな、温かい心ができていくのであります。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

# 常寂光土への誘い (7)

無量義經 德行品第一

而も<sup>しか</sup>実<sup>じつ</sup>には相<sup>そう</sup>非<sup>ひ</sup>相<sup>そう</sup>の色<sup>しき</sup>なし 一切<sup>さい</sup>の有<sup>う</sup>相<sup>そう</sup>眼<sup>まなこ</sup>の対<sup>たい</sup>絶<sup>ぜつ</sup>せり 無<sup>む</sup>相<sup>そう</sup>の相<sup>そう</sup>にして有<sup>う</sup>相<sup>そう</sup>の身<sup>み</sup>なり 衆<sup>しゅ</sup>  
生<sup>じやう</sup>身<sup>しん</sup>相<sup>そう</sup>の相<sup>そう</sup>も亦<sup>また</sup>然<sup>しか</sup>なり 能<sup>よ</sup>く衆<sup>しゅ</sup>生<sup>じやう</sup>をして歡<sup>かん</sup>喜<sup>ぎ</sup>し礼<sup>らい</sup>して 心<sup>こころ</sup>を投<sup>な</sup>じ敬<sup>けい</sup>を表<sup>あらわ</sup>して慇<sup>おん</sup>懃<sup>ごん</sup>なること  
を<sup>じやう</sup>成<sup>じやう</sup>ぜしむ。是<sup>こゝ</sup>れ自<sup>じ</sup>高<sup>かう</sup>我<sup>が</sup>慢<sup>まん</sup>の除<sup>のぞ</sup>くるに因<sup>よ</sup>つて 是<sup>かく</sup>の如<sup>ごと</sup>き妙<sup>みよ</sup>色<sup>しき</sup>の身<sup>み</sup>を成<sup>じやう</sup>就<sup>じゆ</sup>したまえり

「相<sup>そう</sup>非<sup>ひ</sup>相<sup>そう</sup>の色<sup>しき</sup>なし」 相<sup>そう</sup>とは姿<sup>すがた</sup>に現<sup>あらわ</sup>れること。非<sup>ひ</sup>相<sup>そう</sup>とは現<sup>あらわ</sup>れないことであります。仏<sup>ぶつ</sup>さまのお徳<sup>とく</sup>といふものは、そうしたことを超越<sup>こえ</sup>した無限<sup>むげん</sup>のもので、その智慧<sup>ちゐ</sup>の働<sup>はたら</sup>きも無限<sup>むげん</sup>であります。「一切<sup>さい</sup>の有<sup>う</sup>相<sup>そう</sup>眼<sup>まなこ</sup>の対<sup>たい</sup>絶<sup>ぜつ</sup>せり」 相<sup>そう</sup>限<sup>げん</sup>りある（有<sup>う</sup>相<sup>そう</sup>）人<sup>にん</sup>間の眼<sup>まなこ</sup>では到底<sup>たいてい</sup>その本<sup>ほん</sup>質<sup>しつ</sup>を見ることはできません。仏<sup>ぶつ</sup>さまは計<sup>はかり</sup>り難<sup>がた</sup>く、しかし乍<sup>は</sup>ら「無<sup>む</sup>相<sup>そう</sup>の相<sup>そう</sup>にして有<sup>う</sup>相<sup>そう</sup>の身<sup>み</sup>なり」で、現<sup>あらわ</sup>れたところは限<sup>かぎ</sup>りがあるけれども、相<sup>そう</sup>に現<sup>あらわ</sup>れないような洪<sup>こう</sup>大な徳<sup>とく</sup>があつて、それが有<sup>う</sup>相<sup>そう</sup>の身<sup>み</sup>となつて出<sup>で</sup>現<sup>げん</sup>され、世<sup>よ</sup>の人<sup>ひと</sup>々の帰<sup>かへ</sup>依<sup>い</sup>を得<sup>え</sup>るのです。「衆<sup>しゅ</sup>生<sup>じやう</sup>身<sup>しん</sup>相<sup>そう</sup>の相<sup>そう</sup>も亦<sup>また</sup>然<sup>しか</sup>なり」 相<sup>そう</sup>私<sup>し</sup>どももの相<sup>そう</sup>もやはりその通<sup>と</sup>り、人<sup>にん</sup>は皆<sup>みな</sup>、仏<sup>ぶつ</sup>になる性<sup>じやう</sup>質<sup>しつ</sup>を持<sup>も</sup>つていますので、その徳<sup>とく</sup>が心<sup>こころ</sup>に具<sup>く</sup>わつてくれれば自<sup>みづか</sup>ら相<sup>そう</sup>に現<sup>あらわ</sup>れるのであります。

仏<sup>ぶつ</sup>さまの徳<sup>とく</sup>が相<sup>そう</sup>に現<sup>あらわ</sup>れるのですから、大<sup>だい</sup>勢<sup>し</sup>の世<sup>よ</sup>の中<sup>なか</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>々</sup>が喜<sup>よろこ</sup>んで礼<sup>らい</sup>拝<sup>はい</sup>するようになり、「心<sup>こころ</sup>を投<sup>な</sup>じ敬<sup>けい</sup>

を表して」 Ⅱ心から仏さまに帰依して、「慇懃なることを成ぜしむ」 Ⅱありがたいと思う気持ちが、際限なく湧いてくるのです。「自高我慢の除くるに困って」 Ⅱ仏さまは決して自分で自分を偉いと思われず、自ら覺りを得られたのでありますが、自ら覺ったとは思われず、さらに修行を重ねられたのです。まだまだ足りないという考えで修行を重ねられた結果、智・徳を成就され、仏の境界に達せられたのです。でありますから、「是の如き妙色の身を成就したまえり」で、誰もが仰ぎ見て、自然に頭の下がるような相をお具えになられたのであります。

今我等八万の衆 俱に皆稽首して咸く 善く思相心意識を滅したまえる 象馬調御無着の  
いまわれら まん しゅ とち みなけいしゅ こごと よ しそうしん いしき めつ ぞうめじうご むぢやく  
聖に帰命したてまつる  
しやう きみよ

今ここにおります八万の人々は、ともに皆仏さまに心からご帰依申し上げました。

「稽首」とは「帰命」「南無」「帰依」と同意語で、頭を地に着けて拝礼すること。最高の敬意を表す敬礼法であります。「思相心意識を滅したまえる」 Ⅱ仏さまは常に諸法の実相を見ておられます。この世界に起こるさまざまなことに心を動かされることがありません。絶対の真理がおわかりになったお方でありますから、思相心意識を滅したと言われているのです。「象馬調御無着の聖」 Ⅱ仏さまは、御者が象や馬を巧みに調教するように、大勢の人々を教え導いて迷いを除き、正し、励ましていかれますので、大勢の

人々はその教えを永く守っていこう（帰命）という心になります。「聖」は、人を恵み、教えを施し、その人が善い境遇になっていくことをともに喜ぶ人です。十界の中の声聞・縁覚・菩薩の上に立って、執着のない境界を持つ人を聖というのであります。

稽首<sup>けいしゅ</sup>して法色身<sup>ほうしきしん</sup> 戒・定・慧・解・知見聚<sup>ちけんじゅ</sup>に帰依<sup>きえ</sup>したてまつる 稽首<sup>けいしゅ</sup>して妙種相<sup>めうしゆそう</sup>に帰依<sup>きえ</sup>し

たてまつる 稽首<sup>けいしゅ</sup>して難思議<sup>なんしぎ</sup>に帰依<sup>きえ</sup>したてまつる

「法色身」＝法は法身、つまり「心」の方で、色は色身、つまり「身」の方です。お姿もお心の徳も非常に勝れておられる仏さまに、私達は帰依するということです。「戒・定・慧・解・知見」という、いろいろな働きを収められた方が仏さまです。「聚」とありますのは「集まり」ということで、自分達はこの仏さまに帰依し、お手本として、こういう行いを実行し続けます、と申し上げたのです。

「妙種相に帰依し：難思議に帰依」とありますのは、「到底普通の人間の頭では思いも及ばぬような、非常に勝れた徳を具えていらっしゃるまで修行して、そのお徳に帰依申し上げます」ということです。私達も又、仏さまと同じような徳を具えられるまで修行して、大勢の人を導く努力を続けていくならば仏さまに近い働きのできる人間になることができるばかりか、人として最も尊い意義を持った人となり、帰依を受ける人となり得ると思います。仏さまの教えを信仰する意義はここにあるわけです。

# やさしい仏教

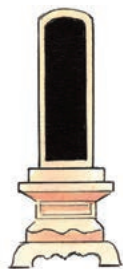
## 授戒と法名<sup>じゅかい ほうみょう</sup>

「授戒」とは法名をいただくことです。「法名」とは、仏さまのお弟子としての名前です。亡くなってからいただくものと考えがちですが、本来は生きている間にいただくものです。仏さまのお弟子となった自覚と仏さまの教えを実行するお誓いを立て、周りの人を喜ばせ、信頼される人になりましょう。

## 位牌<sup>いはい</sup>

お位牌は、亡くなられた方の象徴です。先祖の仲間入りをされたその方々から私達はたくさんのご恩をいただいていますから、お仏壇の中に祀り、大切に「ご供養」していきましょう。

お位牌が二つある場合は、向かって右が上座とされています。お位牌が多くなると、何枚かの木札が入る「繰り出し位牌」で一つにまとめることが慣習とされています。繰り出し位牌で納めることができなくなると過去帳でお祀りすることもあります。



位牌



繰り出し位牌



過去帳

# 顯修院日達上人御祥月命日リモート唱題行開催

顯修院日達上人の御祥月命日である12月18日午後1時30分より、本山にて報恩唱題行が行われ、64名が参加されました。なお、この唱題行はリモートで全国に同時中継されました。

唱題行は日蓮宗の唱題行次第に則って進められました。

唱題行のポイントは、心を落ち着ける「浄心行」、そして一心にお題目を唱える「正唱行」、唱えたお題目の功德を味わう「深心行」にあります。

お題目を唱える前にまず「浄心行」です。姿勢を調え、呼吸を調え、心を調えます。ゆっくり腹式呼吸をいたします。呼吸の数を数えることに精神を集中いたします。

その後「正唱行」、唱題を行います。姿勢を正し、恭しく朗らかな声、温かな仏さまの御心でお題目を丁寧にお唱えいたします。はじめはゆっくりとお唱えし、だんだんと速く、最後はまたゆっくりにしていく、緩

急のついたお題目を一心に集中してお唱えします。そして、唱えたお題目の功德を味わう「深心行」を行い、最後に祈願文をお唱えし終了します。

終了後、日達上人の生前のご法話動画を拝見し、その後、鈴木廣修上人のご法話動画を拝見いたしました。

動画では、日達上人は堪忍して徳を積むこと、ありがたいう心を持つことの大切さをご教示くださいました。また、廣修上人は杉山先生のご法話『誠の孝道』について、「私達の唱えるお題目の功德、身に積む三徳の行いが追善となる。自ら唱えるお題目を信じて唱えることが大切である。仏さまの前で信心を養うお題目修養が大切である」とお話しくださいました。

最後に、日達上人の『二日一言』を拝読し終了いたしました。

お題目を通して、たくさんの方がそれぞれの場所から本山とつながったことを尊く感じた1日でした。

(岩田孝学)



唱題行の様子

【参加された方の声】

・とても良い機会になりました。皆さんの声に包まれてお題目を唱えていると心と身体が温かくなり、涙が出てきました。

・初めて参加しました。改めてお題目の大切さや意味を教えていただきました。すぐに実践します。

・お題目の大切さを深く感じました。杉山先生の教えが生きる唱題行。これからお題目を忘れないように唱えます。

・唱題行は心が洗われるようで気持ち良くなりました。  
・独りではなかなか集中してできないので、皆と行い一体感が持てました。定期的にできたらと思います。  
・目には見えない、仏さまのお心を大切にしなければと感じました。

・日達上人さま、今年一年ありがとうございましたと感謝の心で唱えさせていただきました。

※本山では、毎月18日の昼夜、「報恩唱題行」を奉行しています。詳しくは唱題行係まで

# 静岡支院前主管 新庄義真上人のご遷化



## 歎徳文

本月本日 香華燈燭を厳備し 道場を莊嚴し 南無久遠実成大恩教主本師釈迦牟尼仏 南無法唱導師高祖日蓮大菩薩 当山始祖廣宣院殿安立大法尼二祖弘教院殿宗玄大徳 御開山泰山院日進上人 第二世顕修院日達上人等来臨影嚮 証知照鑑の御宝前において清浄の大衆とともに一乗圓頓の法筵を

展べ 以て当山静岡支院前主管 泰誠院日寛上人 葬送の儀を厳修し奉る 夫れ惟みるに三明究竟の阿羅漢も寂滅の炎に消え 十号円満の如来も涅槃の烟に隠れ玉う 凡そ生をこの世に示せるもの 誰か必滅を免るる事を得んや

茲に日寛上人 世寿八十有八歳 法蘭六十五年を以て今生の一期とし 令和五年一月四日 法体眠るが如く人界娑婆を離れて安祥として化を他界に遷さる 嗚呼哀しい哉 上人 その人となり 資性温厚にして柔和 他に接するに常に慈愛を以てす 今歎徳一章を草し 日寛上人の行実の概要を叙してその法功遺徳を歎揚し 以て上人の増道損生に資し奉らんと欲す 冀はくは上人の覚靈 道場に影現し 日教が誠諦の語を納受あらせ給わんことを 状を案ずるに 上人昭和十一年四月八日 父新庄数男 母芳子の四男とし

て大阪市西区おくみ町に生まる 新庄家は篤信の家門なり 上人の往因の妙業深厚なるを感ず

昭和三十四年八月二十六日 顕悟出塵の志を持ち御開山泰山院日進上人を戒師として剃髮得度 その幼名義照を変じて義真と改める 昭和四十年 縁あつて 只好美女と結婚 二男二女に恵まれる

昭和四十四年 顕修院日達上人の命により 袋井教会の担任となる 後磐田の地に移り 現静岡支院 顕修寺の主管となる

上人求道心堅固にして菩提心を退せず 法華経広宣流布に身を捧げ 昼夜に玄題を高唱し 慈悲・至誠・堪忍の師訓を体し 行学二道の精進常に怠らず 支院においてはその維持発展に尽力し 永年の日蓮聖人御一代記の上演はその功績大なるものにして衆人の刮目する処なり 又 本山においては

内局委員 進師法縁法音会副幹事長  
広報委員長等を歴任 上人生涯仏祖の  
誓願を一身に体し 道心聊かも揺るが  
ず 法燈燦然と輝く

令和四年 大庭圓昭上人に主管者を  
譲るも隠栖の傍ら 支院の寺務を監督  
し 日夜妙経読誦の一念信解の玉を磨  
く 然れば僧俗親疎 上人の徳を慕い  
求道徳益を得たるもの少なからず 僧  
房は常に唱題の声絶えることなし

然りと雖も仏天も通れ難きは生者必  
滅の理 四聖も免れ難きは会者定離の  
習いなり 爰に十号の月の光も有為の  
雲に隠れ 六欲の花の色も転変の風に  
萎む 誰の人か滅せざらん 何れの処  
か常住ならんや

不肖日教 この度の上人の訃報に接  
し 哀惜痛恨の情禁ずる事能わず 本  
日上人の葬送に当り満山の僧侶 檀信  
徒とともに法味妙音を捧げ 上人化導  
の一部を叙し 虔んで上人を無上涅槃  
の妙境に送り奉るものなり 仰ぎ願わ  
くば上來勸請の仏陀諸尊 上人をして  
増円妙道 位隣大覚ならしめ給わんこ

とを

南無妙法蓮華経

維時令和五年癸卯一月八日

大乘山法音寺第三世伝燈

廣顥院日教

稽首和南

### 弔辞 (進師法縁法音会)

本日、法音寺静岡支院前主管新庄義  
真上人の葬儀告別式に際し、進師法縁  
法音会を代表して慎んで新庄義真上人  
に哀悼の意を表します。

新庄さん、長年のお付き合い、友情  
をありがとうございました。新庄さん  
とは法音寺山内僧の時からのお付き合  
いで六十年余りになります。今、祭壇の  
遺影を見つめているとやはり寂しいで  
す。諸行無常の言葉があります。その  
言葉の意味を理解しているつもりです  
が、現在、目の当たりにすると悲しさ  
と寂しさが一層強くなります。

現在、法音寺は20名ほどの山内僧で

すが、私達の時は四名でした。当時、  
山内僧は朝6時30分と夕方4時に本堂  
・庫裡の廊下のぞうきん掛けが日課で  
した。廊下は広く、時間がかかりまし  
たので、時間の短縮を考え、二人用の  
長い雑巾を縫ってもらい、新庄さんと  
肩を並べて雑巾掛けしました。朝6時  
30分とはいえ、冬の水は冷たく、手を  
真っ赤にしながらか雑巾掛けをしました。  
今その姿を思い出すと懐かしく思われ  
ます。

新庄さんは、鈴木慈学上人の隨身を  
長く務められ、法華経三徳の教えを鈴  
木慈学上人から学ばれました。ご法話  
では必ず鈴木慈学上人、祖父江妙綱法  
尼から学ばれた教えを話されました。  
。先師の教えを伝えていきたい」とい  
う信念でした。

35歳の時、袋井教会（現静岡支院）  
の主管者に就任。以来、自行化他し、  
檀信徒の教化、三徳流布に邁進されま  
した。本堂の老朽化により三徳流布の  
拠点を磐田市（現在地）に移し、本堂  
を建立されました。檀信徒も増加し、

後年本堂も手狭になり、本堂再建。二度本堂を建立することはなかなかできないことです。もちろん、法音寺本山の多大なるご支援のもと、法音寺により本堂が建立されました。

新庄さんは、青年会の育成はこれに限る」という信念で日蓮劇を長年演じ、自らも日蓮聖人を演じられました。ある時、日達上人が「新庄君、日蓮劇を今年もやるかね」と尋ねられ、「本物の日蓮聖人より劇の日蓮聖人の方が年寄りだね。それはおもしろい」と言って笑っていらつしやいました。その後、新庄さんは、日達上人の言葉から何かを感じられ、若い人に代わられました。今支院の役員の方は、元青年会で活躍された方達と聞きます。新庄さんの思いが叶えられたのです。

しかし新庄上人、近年身体の不調をきたし、昨年9月静岡支院主管を退任。療養に専心されました。しかしながら生者必滅の理は免れず、本年1月4日、遷化。誠に哀惜の極みであります。しかし上人の生涯は一心に三徳流布に尽

力されたことです。法音寺三先師、第二世顕修院日達上人、大慈悲の御手を差し伸べ、靈山へ導かれ、「この人、三徳流布の大善根者なり」と賞賛されることでしよう。新庄上人、ご苦勞さまでした。あちらの世界で鈴木宗保上人、犬飼常教上人と酒を酌み交わして楽しんでください。また、新庄上人、私はいま暫くこちらに残りますが、近々そちらの世界に行きます。その時は、今まで同様のお付き合いをお願いいたします。新庄義真上人の増円妙道を祈り、位隣大覚を念じます。

令和五年一月八日

進師法縁法音会代表 島田行学

### 弔辞 (檀信徒代表)

お上人さま、とうとうこの日が来てしまいました。わかっていましたが、やはり思っていた以上に悲しいです。つい一週間前の元旦に、新年のご挨拶と本部団参のご報告にうかがいました。時は、〝いつてらつしやい〟と目で合

図をいただきましたね。〝まだまだ大丈夫〟と信じていました。

お上人さまが緊急入院されたのは、二年前の令和3年1月12日の講日でした。山首上人さまご親修の時でした。ずっと病院を拒んでおられたお上人さまの姿を見て、びっくりされたお上人さまの一言で、即救急車を呼ぶことになり、役員一同、「これでちゃんと治療をしていただけね」と喜び合いました。入院も二週間ほどで退院されて、回復とまではいきませんが、その



後の法務は老体に鞭打ってお勤めくださいました。

お上人さまは、毎月行われる行事の他に三つの大きな柱となる行を打ち立てられました。

一つ、日蓮劇上演です。二つ、朝勤百日行。三つ、東海三県団参です。その中でもなんといっても、お上人さま率いる日蓮劇が秋の目玉でした。足かけ4カ月の練習期間内に台詞、動作、感情までを覚えの悪い私達に手取り足取りご指導くださいました。長丁場なので、間にお食事をご用意くださり、上演まで誰一人欠けないようご配慮いただきました。キャスト、スタッフ、総勢でも約30名をとりまとめ、上演後の反省会ではお酒で盛り上げていただき、一人ひとりに講評してくださいました。そのお陰で、翌年に向けて頑張れました。また、「大勢の観客を前に、舞台上に立つなどの経験はありがたいことだ」とよくご教化いただきました。でもお上人さまの日蓮聖人は本当に格好良かったです。

朝勤百日行では毎朝5時50分に駆け込みました。お上人さまは緊張の中で続けておられました。毎日数十名が参加したのも、お上人さまのお姿に引き寄せられたからです。

青年会時代から四十数年、お上人さまとの思い出は尽きませんが、今はただ好美お庫裡さまと再会され、笑顔で語り合っていただきたいと思います。そしてこれからもどうぞ私達を見守ってください。本当に、本当にありがとうございます。檀信徒の代表として心からの御礼を申し上げ、お別れの言葉といたします。ありがとうございます。

令和五年一月八日

檀信徒代表 橋本清勝

### 新庄義真上人ご遷化

令和5年1月4日、静岡支院前主管・新庄義真上人がご遷化されました。大阪にお生まれになり、本山で僧侶としてのご修行の後、ご家族とともに、

袋井教会（現・静岡支院）に赴任されて54年が過ぎました。

磐田市に本堂が建立されて以来、お寺を拠点として、東西に長い静岡県を、檀信徒のためにまさに東奔西走、たくさんの方が新庄上人を縁として、御法と結ばれました。

ここしばらく体調が思わしくないと、檀信徒の誰もが知っておりましたが、回復されることを信じておりました。令和5年を迎えて、1日に元旦会・本山の新年祝祷会団参。3日に支院の新年祝祷会が営まれました。いつかこの日がと覚悟しておりましたが、年頭の行事が無事に行われたことを見届けられたように、その翌日、旅立たれました。

私達にとって、お上人さまのご恩に報いる道は、お上人さまとの書き尽くせない思い出に感謝し、新主管・大庭上人のもと、喜びをもって三徳を実行し、一人でも多くの方が御法に縁を結んでいただけるよう精進することであると思います。お上人さま、どうぞ、

今まで通り、私達をお見守りください。  
本当にありがとうございます。

### 【檀信徒の声】

◇私は、お上人さまが袋井教会に赴任された時から、お経の読み方・木鉦・太鼓はもとより、さまざまなご指導を賜りました。毎年行われた日蓮劇には役者として出演させていただきました。朝勤百日行にも参加させていただき、心に深く刻まれた思い出ばかりです。永い間、本当にありがとうございます。

◇日蓮劇の練習は大変でしたが、今では楽しい思い出です。本当にありがとうございます。

◇今からちょうど20年前、45才の時、お上人さまに声をかけていただき、日蓮劇に役者として参加するようになりまし。このことをきっかけにして、普通に生活できるように体も心も整いました。私にとってまさに「命の恩人」と感謝しております。どうぞゆっくりにお休みになって、お疲れをお取りください。本当にありがとうございます。

◇悩みごとを親身に聞いてくださり、適切なご教化を施してくださいました。特に娘が幼い頃、左腕にやけどを負った時、私も娘も助けていただきました。また、日蓮劇では「もつと素直にせりふを言つてごらんなさい」と、劇を楽しめるように教えてくださいました。心より感謝申し上げます。

◇お上人さまはご法話の時、大きな声と笑顔で、皆をみちびいてくださいました。

◇いつも元気なお上人さまのイメージが私に強く残っています。日蓮劇では、楽しく、時には厳しいと思うご指導でしたが、参加できたことは私にとって宝物です。

◇私の心に深く刻まれておりますのは、お上人さまのご教化です。御法には厳しさもあるけれども、楽しむことが大切だということを教えていただきました。

◇学生時代、本山で大変お世話になりました。支院の日蓮劇に参加した経験が、本山の日蓮劇にも2度出演するこ

とにつながりました。今でも、あざやかに思い出します。

◇お上人さまとのご縁を結ばせていただいて、40年が過ぎました。数え切れないほどの、さまざまな体験をさせていただきました。そのすべてが、お上人さまへの感謝へとつながっています。ありがとうございます。

(通信員 高橋多美子)



支院だより掲載写真は、それぞれ関係者より提供されたものです。尚、本山新年祝祷会の写真は、加納将人氏の撮影です。

# 法音寺は「**信仰**と**福祉**のお寺」です



困っている人達の助けになることで、  
法音寺には“**功德**”が積み重ねられています

(功德とは、「幸せを引きよせる種」です)

その功德が信仰を通して  
皆さんに授けられるのです



## 法音寺による社会貢献

社会福祉法人昭徳会の運営を基に  
現在1,500名を超える人達のお世話をさせていただいています



福祉のさまざまな分野を支え、  
利用者さんの幸福を実現します



### 児童福祉施設

親と暮らせない約170名の子ども達の  
生活を支えています

### 保育園

毎日370名余りの園児達の  
成長を見守っています

### 障がい児・障がい者施設

300名を超える人々に  
日々希望を与えています

### 高齢者施設

600名ほどのお年寄りに  
寄り添っています



学校法人日本福祉大学を通じて  
児童養護施設出身者の就学金に  
皆さんの浄財が使われています



# 福祉の ひろば



SINCE 1912  
SHOTOKUKAI



# 幸せのお手伝い

「言葉の裏の背景と経験を  
想像すること」

## 働く意識と姿勢を教えてください

昭徳会に入社し10年、私に社会人として働く意識と姿勢を教えてくださいましたのは、授産所高浜安立に通所する利用者さん達です。

それぞれに抱えている障がいがありながら、真摯に仕事に向き合う姿は社会人として見習うべきあり方だと思います。

その中でも毎日の生活で何を考えて過ごしているのか、どのようなことに喜びを感じるのかを丁寧に話してくれるAさんとの出会いは、私の考え

方に大きな影響を与えるものとなりました。Aさんは自他ともに認める人見知りの方で本音を聞けるまで時間がかかりました。しかし、話ができる関係になった時に伝えてくれる言葉の内容が濃く、驚いたことを覚えています。ある時は家族のことを「姪っ子が小学生になったんだ。これから楽しみだよ」と話します。テレビで残念な報道があった時には「残念なことをする障がいの人がいるから、真面目な障がいの人が生きにくいんだよね」と報道に向き合い、職員の異動があった時には「優しくしてくれただけ仕方ないね」と悲しみ、行事の前には「今度の行事に行くことが楽しみなんだ」

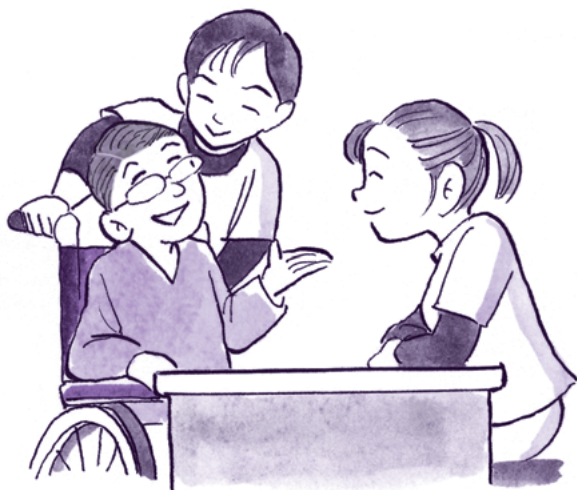
と話をしてくれました。私はAさんが喜怒哀楽を伝えてくれる言葉の背景に、Aさん自身の生き様や経験をのぞき見ることができました。またご家族に「こんなに（Aさんが）心許す職員さんができると思っていなかった」と言われたことは、時間の経過を理由にして傾聴を怠ってはならないと気づかされた瞬間でもありました。

障がいがあってもなくても、他人と心地良いと感じる距離感と関係性を築き上げるためには、それなりの時間を必要とします。行動や表情を巧みに使いながらさまざまなことを伝えてくれる利用者さんの思いを汲み取ること、背景を想像し考えることを大切にできる人でありたいです。また、立場が違えば見方も関わり方も異なりますが「話を聞いてくれるから頼ってみよう」と、ふとした瞬間に思い出していただけ的存在でありたいと願

っています。

障がい者支援センター高浜安立 相談支援専門員

遠山 有希



## 「天王保育園、りんりんちゃんのクリスマス会！」



写真提供・昭徳会

天王保育園  
～愉快的なサンタさんとトナカイさんに子ども達は大喜び～

天王保育園では、12月初めに行われるお遊戯会が終わると、園内はクリスマス一色になります。「今年は、どんな風に子ども達とクリスマスを楽しもうかな？」と、毎年工夫を凝らしながらクリスマス気分を盛り上げています。今年は「音の妖精りんりんちゃん」のお話を職員で考えました。

「音の妖精りんりんちゃんは、みんなのところにサンタさんが迷わず行けるように、音を鳴らして案内するのがお仕事です。しかし、間違えて空から音符を落としてしまいます。一人で探してもなかなか見つかりません。そこで、天王保育園のみんなに探してもらうことにしました。無事にサンタさんは天王保育園まで来ることができるのでしょうか？」というお話です。

お遊戯会が終わるとすぐにりんりんちゃんから手紙が届きます。1通目は、自己紹介とクリスマスツリーをみんなで飾ってねというもの。子ども達は、園内に飾られた大きなツリーに飾りつけを

しました。すると、2通目が届きます。ツリーの飾りつけへのお礼となくした音符を探してねという内容です。園内に隠されている音符を子ども達を探して集めていきます。最後に届いた3通目には、見つけた音符を楽譜に貼って、ハンドベルで演奏してねというメッセージが書かれていて「僕達がサンタさんと呼ぶんだ！」と年長さん達ははりきります。

当日、りんりんちゃんが登場し、年長さんと一緒にハンドベルを演奏します。練習の甲斐もあってとってもきれいな音色です。幕が開き、いよいよサンタさんの登場！子ども達の目はきらきらと輝いています。「うわぁ」と歓声が上がります。しかし、：「んっ？なんかサンタさんの後ろにいる？」なんとトナカイさん！サンタさんしか来ないと思っていた子ども達は、びっくりです！サンタさんが登場し、クリスマス会がスタート！サンタさんへの質問タイムには「なんでひげが

生えているの？」「なんでプレゼントをくれるの？」など素朴な質問が次々に。「サンタさんのうちにトナカイは何匹いるの？」という質問には、トナカイさんが答える場面もありました。その後、サンタさんにプレゼントをもらい、大興奮の子ども達。最後に子ども達からお礼の歌をプレゼントしました。元気なサンタさんと愉快なトナカイさんは、みんなの歌を聞きながらダンスを披露。大盛り上がりで会は終了しました。サンタさんが帰った後には、園庭にソリの跡が!!「サンタさんまた来てね」とお空に向かって叫ぶ子ども達でした。

笑顔あふれるクリスマス会。毎年、法音寺さまにご協力いただき、ありがとうございます。クリスマス会を盛り上げてくださった、サンタさん、トナカイさん本当にありがとうございます!!ぜひ、来年もまた来てください。

天王保育園 次長（主任保育士） 伊藤 みどり

# 日本福祉大学を退職する教員の最終講義のご案内

～日本福祉大学～

本学では毎年、定年等で年度末に退職する教員の「最終講義」を、在学生のみならず卒業生や一般の方にも広く公開する形で実施しています。

「最終講義」は専任教員がそれぞれの専門領域について、これまでの教育・研究・実践の歩みを振り返り、本学のキャンパス内で登壇する文字通り最後の授業ということになります。すべての退職教員の最終講義が実施されているわけではありませんが、恩師の有終の美を見届けるために、全国にいる多くの卒業生がキャンパスに集い、聴講されています。

現在決まっている最終講義は次の通りです。一般の方も聴講可能で、Web上（Zoom）でも配信いたしますので、ご興味のある講義がありましたらぜひお申し込みください。

## 【現在決定している最終講義一覧】

### ●看護学部

教員名 宮腰 由紀子

講義テーマ 看護は宝物で満ちた宝石箱

——看護を探り看護を学ぶ——

### プロフィール

千葉大学で看護教育と教員教育を受け（教育学士）、順天堂大学大学院で健康管理学（体育学修士）と公衆衛生学（医学博士）を修めた。専門学校での保健師・助産師教育を経て助産師と看護師として病院勤務後、26歳から看護教員として専門学校・短期大学・大学学部・大学院研究科で、基礎看護学領域の教育と研究に従事した。この間に看護学専攻長・看護開発学講座長・看護学研究科長を担うとともに、国県市の諸委員会にも参画した。本学看護学部には開設年の2015年度は非常勤講師として、2016年度からは専任教員として基礎看護学領域を担当。2020年度開設の大学院看護学研究科では研究科長に就き、2021年度からは多職種連携教育委員長も担った。

日時・場所 2023年2月18日（土）9時30分～12時

（10時45分～11時45分）○内は登壇時刻

日本福祉大学東海キャンパス C201・20

2、およびZoom配信

教員名 長江 美代子

講義テーマ 暴力のない次世代社会を

めざして

プロフィール

名古屋市立大学看護短期大学部看護学科卒業（1991年）後、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院で看護師として勤務。1997年から

米国イリノイ大学シカゴ校に留学し看護学修士および博士を取得。2005年帰国後は大学教員として就職した。日本福祉大学には、看護学部が開設された2015年に教授として着任した。大学での看護教育に加え、専門看護師、公認心理師として、DV被害女性とその子どもの支援にかかわる研究・実践活動を重ねた。2016年には、日赤名古屋第二病院との共同により性暴力救援センター（なごみ）を立ち上げ運営に関わっている。

研究分野 女性と子どもに対する暴力の撲滅／暴力被害による

PTSDの予防・治療・回復

日時・場所 2023年2月18日（土）9時30分～12時

（9時35分～10時35分）（内はご登壇時刻

日本福祉大学東海キャンパス C201・20

2、およびZoom配信

写真提供・日本福祉大学



## ●スポーツ科学部

教員名 荒木 雅信

講義テーマ スポーツにおけるこ

と身体のつながりについて、循環するという現象からみることで、個々の要因の相互作用が大きな行動を生み出すメカニズムを考える。（仮題）

日時・場所 2023年2月21日（火）

13時～14時・

Web（Zoom）配信

教員名 白石 龍生

講義テーマ 「大事件・大事故ほど風化しやすい」学校安全教育の視点から正常

化の偏見について話をします。

日時・場所 2023年2月21日（火）

14時30分～15時30分・

Web（Zoom）配信



※各講義へのお申し込みや詳細については以下からご覧ください。

2022年度日本福祉大学 最終講義

検索



幸せの種まき

明日といわず今日ただ今より

三徳を実行しましょう

三徳の実行は

〴〵そのうちに〴〵ではなく

思い立った今日から

自ら率先して始めましょう

大乗山 法音寺



編集後記

昭和39年にスタートした『法音』が月刊誌になったのは昭和50年のことでした。

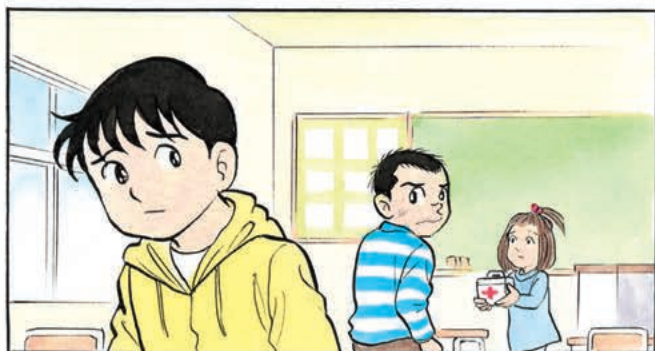
「永年の懸案であった毎月発行が、ここに実現されますことは、ひとえにご愛読者皆さまのご支援の賜と感謝する次第であります。月刊小冊子となりますと、毎月、山首上人さまのご講演、鈴木上人さま（鈴木宗保上人）のご遺文解説等、法音寺の教えに、直接に接することができるわけです。また携帯にも保存にも、大変便利になり、一層親しんでいただくことができるものと思います」（昭和50年1月号 広報委員長・新庄義真「月刊小冊子になって」より抜粋）何としても、山首上人さまのご法話を一人でも多くの人々に届けようという熱い思い、そして、その思いが実現したことの喜びが文面から瑞々しく感じられます。

昭和39年から『法音』発行に携わってこられた新庄義真上人が、去る1月4日、ご遷化されました。私達は新庄上人の思いを引き継いでこれからも歩んでまいります。言葉では言い表せないほどの感謝を込めて、心からご冥福をお祈りいたします。

# じいちゃんの遺言

竹中 淳







なんだか  
モヤモヤして



眠れない



そういえば前にも  
こんなことあったな

まだボクが保育園に  
行つて、じいちゃんが  
亡くなる前のこと

じいちゃんが作つて  
くれた糸でんわで  
遊んでた時

もしもーし蓮  
聞こえるかあ



うん  
聞こえるよ

どうした  
元気ないな



今日保育園で  
友達とケンカ  
しちゃった



大好きな友達  
なんだろう？  
ケンカしちゃ  
いかな



ケンカは  
つまらんど

お互いにお互いに  
どっちが悪いなんて  
言い争つても  
しょうがないだろ？



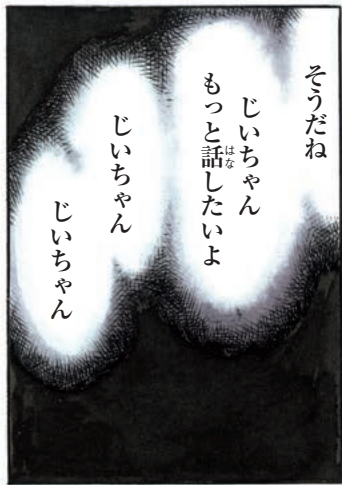
今一番しなきゃいけない  
大切なことを考えた方が  
いいに決まつてる

そうだね

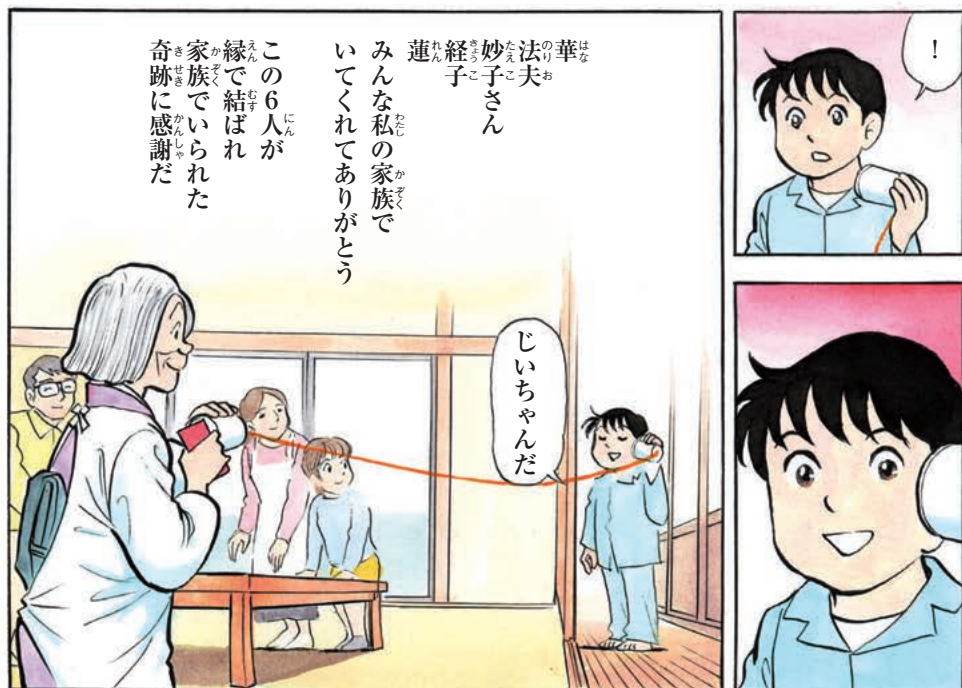
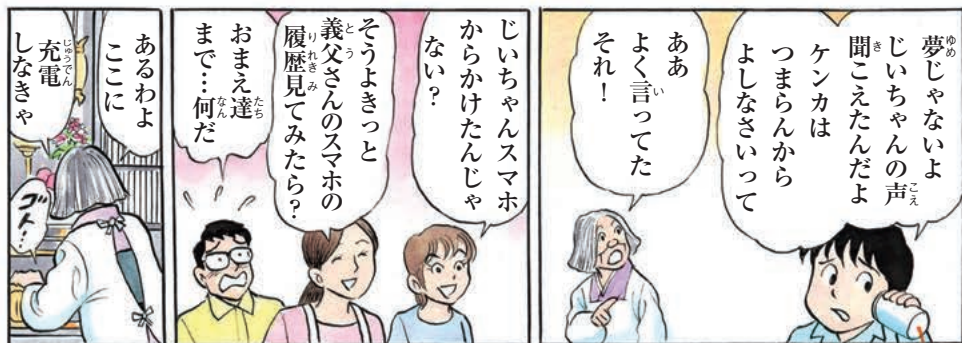
じいちゃん  
もっと話したいよ

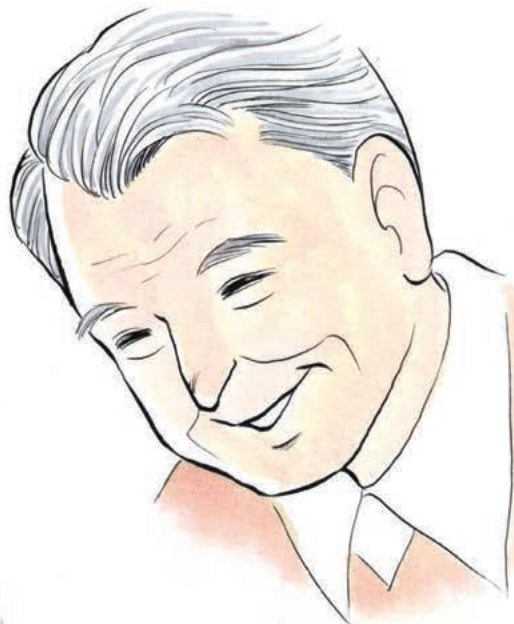
じいちゃん

じいちゃん









みんな仲良<sup>なかよ</sup>くや<sup>や</sup>つて<sup>つ</sup>るか  
家族<sup>かぞく</sup> 友達<sup>ともだち</sup>  
まわ<sup>まわ</sup>りの人<sup>ひと</sup>を大切<sup>たいせつ</sup>に  
するんだよ

ケンカやあらそいは  
つまらんから  
しちやいかんよ

おこ<sup>おこ</sup>怒<sup>おこ</sup>ったり恨<sup>うら</sup>んだりした<sup>うら</sup>って  
なん<sup>なん</sup>何<sup>なん</sup>の得<sup>とく</sup>にもならないし  
ろくなことないからな  
いいね







おしまい

# 法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…  
人々を本当の幸せにする仏教の精神で  
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、  
差別を受けたハンセン病を患った人々に  
寄り添い、様々な事情で親をなくした  
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に  
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。  
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を  
運営する中で、本当に人々を救済するには  
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、  
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・  
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を  
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に  
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。  
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、  
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、  
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





# 勇猛精進

相手を満足させればすぐ喜びがくる  
相手をいたわれれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂  
《山首上人の大修行御成満奉告法要の砌》

## 日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135  
<https://www.houonji.com> FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日  
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています



### SNSでつながる法音寺



法音寺公式  
**facebook**で  
毎朝7時  
『一日一言』  
配信中!!

こちらの  
QRコードから  
ご覧いただけます。



毎週火曜日  
**法音寺メールマガジン**  
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、  
人にやさしく生きていくための  
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから  
メールマガジン登録フォームを  
ご覧いただけます。



**YouTube**にて  
**法音寺チャンネル**  
開設中!!

<https://www.youtube.com/user/houonjmovie>

こちらのQRコードから  
法音寺紹介動画を  
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索



### 法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

#### 社会福祉法人 昭 徳 会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

#### 法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市中区駒方町4-10  
TEL (052) 831-5171  
<https://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

#### 学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

#### 法人本部

〒470-3295  
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6  
TEL (0569) 87-2211  
<https://www.n-fukushi.ac.jp>

